

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1・2・3組：高井） （4・5組：上村） （6・7・8組：藤原）

使用教科書：（143 筑摩 論国710 ）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】読み書きで論理的に考える力を伸ばし、創造的に考える力、伝え合う力を身につけ、自分の思いや考えを広げる。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、我が国の文化の担い手としての自覚を深める。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	読み書き領域で、論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力や他者と伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとするとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、考え方を深めようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>単元「桜が創った「日本」」</p> <p>【知識及び技能】 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばし、創造的に考える力や他者と伝え合う力を高める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、考え方を深めようとしている。</p>	<p>・指導事項</p> <p>①本文を読んで、既存の関係を相対化するために視点を反転させる思考のあり方を学ぶ。</p> <p>②桜を扱った和歌や文学作品について調べ、その中で「桜」がどのように描かれているか、まとめる。</p> <p>・教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 言葉には、ものを認識し説明を可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 読解を通して、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨を把握している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。</p>	○	○	○	6
	<p>単元「100パーセントは正しくない科学」</p> <p>【知識及び技能】 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばし、他者と伝え合う力を高める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、考え方を深めようとしている。</p>	<p>・指導事項</p> <p>①物事を筋道立てて考えるために役に立つ論理学の用語や、科学における仮説の意味などを学ぶ。</p> <p>② 科学が「100%は正しくない」とはどのようなことか、考える。</p> <p>③ 身近な出来事から推論の例を考え、本文にならってその推論を図に書いて説明する。</p> <p>・教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 言葉には、ものを認識し説明を可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 読解を通して、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨を把握できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。</p>	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	<p>単元「地図の想像力」</p> <p>【知識及び技能】 読解に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 論理的、批判的に考える力を伸ばし、他者と伝え合う力を高める。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、考え方を深めようとしている。</p>	<p>・指導事項</p> <p>①本文の論理構成を追い、人間と世界との多様な関係について考える。</p> <p>②さまざまな地図について、その特色を話し合う。</p> <p>③関心のある情報について、発信者の価値基準に着目して比較・分析をする。</p> <p>・教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 言葉には、ものを認識し説明を可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 読解を通して、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨を把握できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、考え方を深め、自らの学習を調整しようとする。</p>	○	○	○	7
	<p>補助教材 定番小説「山月記」</p> <p>【知識及び技能】 物語の理解を助ける国語の知識を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 創造的に考える力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 我が国の言語文化の担い手としての自覚や自らの考え方を深めようとしている。</p>	<p>・指導事項</p> <p>①虎になるまで、虎になってからの主人公の心境の変化を捉える。</p> <p>②人間存在にとつての「運命」とは何か、またそれを受け入れるまでの考え物物の見方の変化を捉え、実社会においても起こりえる理不尽な現実といかに向き合うかについて考えを深める。</p> <p>・教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 言葉には、ものを認識し説明を可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 登場人物の生き方や考え方を理解し、人間への理解を深める。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 読書に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深めようとしている。</p>	○	○	○	7
定期考査			○	○		1	

高等学校 令和7年度（2学年） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：（1・2・3組：藤原）（4・5組：本間）（6・7・8組：上村）

使用教科書：（古典探究 筑摩書房）

教科 国語 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		読	書	聞					
古文編 第2章 歌に思いを託す 物語（一） 伊勢物語「初冠」 （方丈記） ○歌物語の表現の特徴を理解し、物語を解釈する	・指導事項 ①「伊勢物語」を通して語句の意味や用法を確認する。 ②「伊勢物語」を通して、歌がよみだされるまでの物語の構成や展開に注意しながら、話の面白さを味わう。 ③助動詞の活用について確認する。 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「伊勢物語」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・歌物語という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 ・教材の内容に関心を持っている。（発問・授業時の反応） ・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	○	○	○	12
		漢文編 第1章 創成と典故—故事成語 「先從隗始」戦国策 ○新たな表現を支える典故の力を理解する	・指導事項 ①「郭隗先生」による、求めるものを手に入れるための意外ともいえる方法を読み解き、中国古代のものの見方、感じ方や考え方を理解する。 ②故事成語を理解する。 ③本文に用いられた句法を理解する。 ④漢文の特色を声に出して味わう。 ・「先從隗始」戦国策 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「先從隗始」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・「先從隗始」の故事成語という文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 ・故事成語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 ・教材の内容に関心を持っている。（発問・授業時の反応）	○	○
1学期 古文編 第5章 体験を語る 日記 更級日記「源氏の五十余巻」 ○作品に表現された心情を読み取る	・指導事項 ①作者は過去を回想してこの作品を記しているが、回想しているときの作者の心情を読み取る。 ②「更級日記」を通して、語句の意味や用法を確認する。 ③「なむ」の識別を理解する。 ④助詞の用法を理解する。指導事項・更級日記「源氏の五十余巻」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「更級日記」の日記文学という文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 ・「更級日記」を通して、時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めることができる。 ・日記文学という文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 ・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	○	○	○	11
漢文編 第4章 言動の記録—史伝 「鴻門之会」史記項羽本紀 ○言動の記録をたどり、人物像を捉える	・指導事項 ①登場人物の性格や心情・人間関係などを整理しながら話の展開をおさえ、歴史記述の特徴を把握する。 ②本文に用いられた句法を理解する。 ③漢文の特色を声に出して味わう。 ・「鴻門之会」史記項羽本紀 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「史記」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・「史記」という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）	○	○	○	11
定期考査						○	○		1
古文編 第7章 歴史を語る 物語（三） 大鏡（一） 「花山院の出家」 「南の院の鏡射」 ○歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する	①文章の構成や展開に注目する。 ②登場人物の思惑を読み取りながらエピソードの面白さを味わう。 ③「大鏡」を通して、語句の意味と用法を確認する。 ④敬語の用法を理解する。 ④「まし」「だに」「かは」「な～」の用法を理解する。	○	○	○	・「大鏡」に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・歴史物語という文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 ・教材の内容に関心を持っている。（発問・授業時の反応） ・学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。（学習の見通し）		1		10
定期考査						○	○		1

2 学 期	漢文編 第7章 読み継がれる思想 「論語」論語 「性悪」荀子 ○普遍的な人間性を語る論法に 触れ、自らの考えを広げる	・指導事項 ①登場人物の社会観や人生観を読み 取り、それぞれの生き方を理解す る。 ②荀子の人間観を読み取る。 ③本文に用いられた句法を理解す る。 ④漢文の特色を声に出して味わう。 ・「論語」論語「性悪」荀子 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「論語」「性悪」という文章の種類とその特 徴について理解を深めることができている。 「論語」「性悪」を読むことを通して、我が国 の文化と中国など外国の文化との関係について 理解を深めることができている。 ・「論語」「性悪」について、内容や解釈を自 分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたり することができている。 教材の内容に関心を持っている。(発問・授業 時の反応)				10
	定期考査						○	○		1
	古文編 第4章 人と人とが織りなす 世界 物語(二) 源氏物語「光源氏の誕生」 (桐壺巻) 「若紫の君」 (若紫巻) ○多様な人間関係と物語の展開 を読み取る	・指導事項 ①「源氏物語」における登場人物の 行動や心理を場面や状況に応じて的 確に捉える。 ②長編物語がどう始まり、展開する かを理解する。 ③「源氏物語」を通して語句の意味 や用法を確認する。 ④助動詞の用法を理解する。 ⑤敬語の用法と対象を理解する。 ・源氏物語「光源氏の誕生」 「若紫の君」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「源氏物語」における文の成分の順序や照 応、文章の構成や展開の仕方について理解を深 めることができている。 ・「源氏物語」を読むことを通して、我が国 の文化の特質について理解を深めることができ ている。 ・「源氏物語」の読解を通して、必要に応じて 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈 するとともに、文章の構成や展開、表現の特色 について評価すること。 ・長編物語という文章の種類を踏まえて、古典 特有の表現に注意して内容を的確に捉えること ができている。 ・生涯にわたって古典に親しみ自己を向上さ せ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を も深めようとしている。(古典への取り組み)	○	○	○	12
漢文編 第4章 言動の記録－史伝 「四面楚歌」史記項羽本紀 ○言動の記録をたどり、人物像 を捉える	・指導事項 ①登場人物の性格や心情・人間関係 などを整理しながら話の展開をおさ え、歴史記述の特徴を把握する。 ②本文に用いられた句法を理解す る。 ③漢文の特色を声に出して味わう。 ・「四面楚歌」史記項羽本紀 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「史記」における文の成分の順序や照 応、文章の構成や展開の仕方について理解を深める ことができている。 ・「史記」を通して、時間の経過による言葉 の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたら した影響について理解を深めることができている。 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、 粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感 じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しよう としている。(言語活動への取り組み)	○	○	○	12	
定期考査							○	○		1
3 学 期	古文編 第7章 歴史を語る 物語(三) 平家物語 「能登殿の最後」(巻11) ○歴史的な事実と比較しなが ら、物語を解釈する	・指導事項 ①ことばの響きやリズムを味わう。 ②時代の転換期を生きた人々の思い や考え方を読み取る。 ③「平家物語」を通して、語句の意 味や用法を確認する。 ・平家物語「能登殿の最後」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「平家物語」に表れている、言葉の響きやリ ズム、修辞などの表現の特色について理解を深 めることができている。 ・「平家物語」を読むことを通して、我が国 の文化の特質について理解を深めることができ ている。 ・「平家物語」の読解を通して、必要に応じて 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈 するとともに、文章の構成や展開、表現の特色 について評価することができている。 ・言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、 粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感 じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しよう としている。(言語活動への取り組み)	○	○	○	12
	漢文編 第5章 物語の創造－小説 「王昭君」西京雜記 第3章 韻文の表現 「登楽遊原」他 ○作品を正確に読み取り、その 構成を分析し、表現効果を理 解する ○景情一致の技法を理解する	・指導事項 ①王昭君(『西京雜記』)と李白 「王昭君」、大江朝綱「王昭君」、 赤染衛門「王昭君をよめる」を読み 比べる。 ②①でまとめた点を踏まえ、それぞ れの作品の特徴について、ノートに まとめる。 ③グループに分かれ、各自がまとめ た点を比べて、共感する点や意見が 異なるを話し合う。 ①起承転結という形式を用いて、詩 人がどのように心情を表現している のか、考える。 ②漢詩の種類・韻字・対句をまとめ る。 ・「王昭君」西京雜記 「登楽遊原」他 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	・「王昭君」の読み比べを通して、用いられて いる語句の意味や用法を理解し、古典を読むた めに必要な語句の量を増すことを通して、語感 を磨き語彙を豊かにすることができている。 ・「王昭君」の読み比べを通して、文章の種類 を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えるこ とができている。 ・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注 意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深 めようとしている。(授業時の反応) ・五言絶句の近体詩における文の成分の順序や 照応、文章の構成や展開の仕方について理解を 深めることができている。 ・五言絶句の近体詩の成立した背景や他の作品 などとの関係を踏まえながら古典などを読み、 その内容の解釈を深め、作品の価値について考 察することができている。 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘 り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感 じ方、考え方を深め、自らの学習を調整しよう としている。(言語活動への取り組み)	○	○	○	10
	定期考査							○	○	
合計										117

高等学校 令和7年度（2学年） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科：地理歴史 科目：地理総合 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：（1～8組：今垣）

使用教科書：（『高等学校 新地理総合』帝国書院、『新詳高等地図』帝国書院）

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解しているとともに、地図やGISなどを用いて諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、相互依存作用などに着目しつつ概念などを活用し、多角的、多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 単元 私たちが暮らす世界 【知識及び技能】 緯度・経度の違いが、私たちの生活にどのような影響を与えているのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地球儀と世界地図の違いを理解し、用途に応じて適切に利用できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 国民として、日本の位置と領域を理解するとともに、排他的経済水域の重要性を考える。	指導内容 緯度・経度 地球儀と世界地図 日本の位置と領域 ・教材 教科書・地図帳 ・一人1台端末を活用し、適宜地理院地図やGoogleEarthなどを扱う。	【知識及び技能】 ・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○	○	○	4
B 単元 地図や地理情報システムの役割 【知識及び技能】 さまざまな地図があることを理解し、地図利用の可能性を考える。 地形図や地理院地図の特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 GISとは何かを理解し、活用の可能性を考える。	指導内容 地図の種類 地形図のルール 主題図の種類と読み取り地理情報システムと地図 地図を利用して、現代世界を多面的多角的にとらえる。 ・教材 教科書・地図帳 ・一人1台端末を活用し、適宜地理院地図やGoogleEarthなどを扱う。	【知識及び技能】 ・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ・さまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。	○	○	○	4
C 単元 資料から読み取る現代世界 【知識及び技能】 交通・通信網の整備や、人・モノ・情報の移動に関して、図表の読み取りを通じて理解する。 交通・通信技術の発達により人やモノ、情報が国境をこえてやり取りをされるようになったことについて、適切に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地域経済圏や国家群がどのように形成され、現状はどのような状態にあるのかなどについて、図表の読み取りから判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 国境をこえた経済活動や政治的なつながりが、人・モノ・情報などのやり取りに大きく影響を及ぼしていることに着目し、現代世界におけるグローバル化の進展について課題意識をもって考察する。	指導内容 交通の発達 情報通信の発達 国境をこえる人々の移動 拡大する貿易 つながる世界、多極化する世界 ・教材 教科書・地図帳 ・一人1台端末を活用し、適宜地理院地図やGoogleEarthなどを扱う。	【知識及び技能】 ・交通・通信技術の発展と国境をこえた結び付きについて、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴などについて、地図や図表の読み取りを通じて理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・交通・情報通信が国境をこえ、その結び付きがますます強固になっていることについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きの強まりに対する関心と課題意識を高め、それを追究し、とらえようとしている。	○	○	○	4
定期考査			○	○	○	1

1
学
期

高等学校 令和7年度(2学年)教科

地理歴史 科目 日本史探究

教科：地理歴史 科目：日本史探究

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：(2・4・6・8組：山本武蔵)

使用教科書：(『詳説日本史』山川出版社)

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】世界の地理的特色と日本及び世界の歴史について理解し、諸資料からまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味・意義・概念などを活用し、多角的に考察し、効果的に説明し議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】課題を主体的に解決しようとする態度を養い、わが国への愛情、他国の文化を尊重する自覚を深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	日本の歴史の展開に関わる事象の意義などを多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して自国、他国やその文化を尊重する自覚を深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
A 単元 日本文化のあけぼの 【知識及び技能】原始時代の日本を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して捉える。 【思考力、判断力、表現力等】原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。 【学びに向かう力、人間性等】原始社会の特色を明らかにしようとしている。	・指導事項 日本列島における旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】原始時代の日本列島の基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、原始時代の日本列島について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、原始時代の日本列島について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
B 単元 古墳とヤマト政権 【知識及び技能】中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色、飛鳥時代を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、古墳、飛鳥時代の社会の変化について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】古墳社会、仏教文化や飛鳥時代の特色を明らかにしようとしている。	・指導事項 国家の形成と古墳文化、推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、特色を考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】古墳時代、飛鳥時代の基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、古墳時代飛鳥時代について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、古墳時代、飛鳥時代について、課題を設け追求する。	○	○	○	7
定期考査			○	○	○	1
C 単元 律令国家の形成 【知識及び技能】隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】学習したことをもとに、律令国家の成立過程や特色について表現する。 【学びに向かう力、人間性等】白村江の戦いや遣唐使、平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程、仏教文化などを考察する。 ・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】隋唐から導入された文化や国際国内情勢などについて学び、律令制国家の形成とその影響について基本的事項を理解する。 【思考・判断・表現】学習したことをもとに、律令国家の形成過程や特色について論ずることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】学習したことをもとに、律令国家の形成過程や特色について、課題を設けて追及する。	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1

高等学校 令和7年度(2学年)教科

数学

科目 数学Ⅱ

教科：数学

科目：数学Ⅱ

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：伊藤 高山 原 藤原

使用教科書：(『高等学校 数学Ⅱ』 数研出版)

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>A 単元 式と証明</p> <p>【知識及び技能】・三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。</p> <p>・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算ができる。</p> <p>・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。</p> <p>・二次方程式の解の種類と判別及び解と係数の関係について理解できる。</p> <p>・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。</p> <p>・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。</p>	<p>・指導事項 いろいろな式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。</p> <p>○二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。</p> <p>○多項式の割り算の計算方法を理解している。分数式の約分、四則計算ができる。</p> <p>○恒等式となるように、係数を決定することができる。</p> <p>○恒等式A = Bの証明を、適切な方法で行うことができる。</p> <p>実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。</p> <p>○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○数学Ⅰで既習の2次式の展開公式を利用して、3次式の展開公式を導くことができる。</p> <p>○多項式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。</p> <p>○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。</p> <p>与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。</p> <p>○不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。</p> <p>○比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○2種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。</p>	○	○	○	9
<p>B 単元 複素数と方程式</p> <p>【知識及び技能】・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。</p> <p>・二次方程式の解の種類と判別及び解と係数の関係について理解すること。</p> <p>・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。</p> <p>・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。</p>	<p>・指導事項 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○複素数、複素数の相等の定義を理解している。</p> <p>○解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。</p> <p>○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。</p> <p>○$P(k)=0$であるkの値の見つけ方を理解し、高次式を因数分解できる。</p> <p>○因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。</p> <p>○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して解くことができる。</p> <p>○高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。</p> <p>○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。</p> <p>○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</p>	○	○	○	11
定期考査			○	○	○	1

<p>C 単元 図形と方程式</p> <p>【知識及び技能】座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。座標平面上の直線や円を方程式で表すこと。軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</p>	<p>・指導事項 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○座標平面上において、2点間の距離が求められる。 ○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。 ○与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。 ○x, yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ○点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察することができる。 ○領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】○点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。 ○直線が x, y の1次方程式で表されることを理解している。 ○円の方程式が x, y の2次方程式で表されることを理解している。 ○円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 ○円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ○平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ○円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。</p>	○	○	○	20
<p>定期考査</p>			○	○	○	1
<p>D 単元 三角関数</p> <p>【知識及び技能】・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。 ・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解することができる。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</p>	<p>・指導事項 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ○いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ○$-1 \leq \sin \theta \leq 1$などに注意して、おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。 ○加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ○2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。 ○合成後の変数のとる値の範囲に注意して、$a \sin x + b \cos x = k$の形の方程式を解くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○一般角を動径とともに考察することができる。 ○三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 ○三角関数を含む方程式・不等式を解く際に、単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。 ○変数をおき換えることで、三角関数を含む方程式を解くことができる。また、その解き方を理解している。また、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○単位円や三角関数のグラフを利用して、三角関数の性質を調べようとする。 ○やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組む意欲がある。</p>	○	○	○	22

高等学校 令和7年度(2学年)教科

数学

科目 数学B

教科：数学

科目：数学B

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：伊藤 島村 原

使用教科書：（『高等学校 数学B』 数研出版）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。

【学びに向かう力、人間性等】数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>A 単元 数列</p> <p>【知識及び技能】・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。</p> <p>・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解すること。</p> <p>・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすること。</p> <p>・数学的帰納法について理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・事象から離散的な変化を見いだし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察すること。</p> <p>・自然数の性質などを見いだし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>・事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用すること。</p>	<p>・指導事項 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。</p> <p>和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1 台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○数列の定義、表記について理解している。</p> <p>○等差数列の公差、一般項などを理解している。</p> <p>○初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。</p> <p>○等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。</p> <p>○等比数列の公比、一般項などを理解している。</p> <p>○初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。</p> <p>○等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。</p> <p>○記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。</p> <p>【思考・判断・表現】○数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。</p> <p>○等差数列・等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。</p> <p>○項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○等差数列・等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲が</p>	○	○	○	14
<p>2 学期</p> <p>定期考査</p>			○	○	○	1
<p>A 単元 数列(続き)</p>	<p>・指導事項 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1 台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。</p> <p>○階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。</p> <p>○数列の和S_nと第n項a_nの関係を理解し、数列の一般項が求められる。</p> <p>○和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。</p> <p>○漸化式の意味を理解し、具体的に項を求めることができる。</p> <p>○初項と漸化式から数列の一般項が求められる。</p> <p>○数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。</p> <p>【思考・判断・表現】○数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。</p> <p>○群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。</p> <p>○複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。</p> <p>○自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることを理解している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。</p> <p>○群数列に興味をもち、考察しようとする。</p> <p>○具体的な事象の考察に、漸化式を積極的に活用しようとする。</p>	○	○	○	14
<p>定期考査</p>			○	○	○	1

<p>C 単元 統計的な推測</p> <p>【知識及び技能】・標本調査の考え方について理解を深めることができる。</p> <p>・確率変数と確率分布について理解することができる。</p> <p>・二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。</p> <p>・正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>・目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。</p>	<p>・指導事項 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。</p> <p>また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○確率変数の確率分布を求めることができる。</p> <p>○確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p>○確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。</p> <p>○複雑な確率分布の期待値を、確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。</p> <p>○独立な確率変数の積の期待値・和の分散を、公式を利用して求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。</p> <p>○確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。</p> <p>○2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに着目しながら導き出す。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>6</p>
<p>C 単元 統計的な推測(続き)</p>	<p>・指導事項 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。</p> <p>また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。</p> <p>○二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。</p> <p>○正規分布に従う確率変数Xを標準正規分布に従う確率変数Zに変換できる。</p> <p>○標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。</p> <p>○二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を、正規分布に従う確率変数で近似して求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】○具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。</p> <p>○正規分布の特徴を理解し、様々な視点からとらえることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○二項分布に興味・関心をもち、さいころを投げるなどの具体的な事項について考察しようとする。</p> <p>○現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>6</p>
<p>C 単元 統計的な推測(続き)</p>	<p>・指導事項</p> <p>母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようになり、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。</p> <p>・教材 教科書・副教材</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】○母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。</p> <p>○母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。</p> <p>○標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。</p> <p>○信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。</p> <p>○仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。</p> <p>○標本の大きさnを大きくしたとき、標本平均がどのような分布になるか直感的に理解した上で、標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。</p> <p>○片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】○現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのはなぜかに興味をもち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。</p> <p>○仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>7</p>
<p>定期考査</p>			<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>1</p>
				<p>合計</p> <p>50</p>

使用教科書: (『高等学校 数学C』 数研出版)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。

【思考力、判断力、表現力等】 事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。

【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

科目 数学C の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 平面上のベクトル 空間のベクトル ベクトル ベクトルについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解すること。 (イ) ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解すること。 (ウ) 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解すること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること。 (イ) ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすること。 (ウ) 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用すること。	「ベクトル」では、平面上のベクトル及び空間におけるベクトルを取り扱う。ここではまず、平面上のベクトルの意味や表し方、演算、内積などの基本的な概念や性質について理解できるようにするとともに、座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解できるようにする。また、ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりする力を養う。さらには、数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用する力を養う。これらのことを通して、ベクトルの考えの有用性を認識できるようにする。なお、ベクトルについては、理科の物理でも取り扱うこととされている。「数学C」で学習するベクトルは、上記の通り、代数的な性格や図形的な性質を中心に学習する内容となっている。一方、理科の物理で取り扱うベクトルは、物体の運動を表す速度、運動量をベクトルで表すことによってそれらの合成や分解などを中心に学習するものであり、中学校の理科や高等学校の「数学I」における「(2) 図形と計量」に関する学習内容等を基に理解することもできる内容となっているが、各科目の履修に当たっては、その相互の関連を図ることが大切である。	平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解するとともに、実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察すること (ア (7)、イ (7)) ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解するとともに、ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすること (ア (4)、イ (4)) 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解すること (ア (9)) 数量や図形及びそれらの関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、ベクトルやその内積の考えを問題解決に活用すること (イ (9))	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1
	A 単元 空間のベクトル(続き)	上記と同様	上記と同様		○	○	○
	定期考査			○	○	○	1

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科： 理科 科目： 物理基礎 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： (1,2組：山本) (3,4組：井澤) (5,6,7,8組：坂本)

使用教科書： (物理基礎 (数研出版))

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	序章 物理量の測定と扱い方 【知識及び技能】 ・物理量の定義を理解し、さまざまな数値を10の累乗の形で表すことができる。 ・有効数字の意味を理解し、測定値の計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・誤差が生じる原因を理解し、有効数字の桁数を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・物理の基礎となる物理量の表し方や誤差と有効数字について、意欲的に学習しようとする。	指導項目・内容 ・物理量、数値、数式のそれぞれの表し方を理解する。 ・誤差と有効数字を理解し、測定値の計算に取り組む。 ・教材 授業プリント	【知識・技能】 ・小テスト	○			3
	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 【知識及び技能】 ・変位、速度、加速度の基本的な物理量の定義を理解し、それぞれを式で表すことができる。 ・記録タイマーの使い方を理解し、得られた打点結果から加速度を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・x-tグラフやv-tグラフから、物体の位置や速度を的確に読み取ることができる。 ・落下運動の特徴を理解し、式やグラフを用いて表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・身のまわりの物体の運動に関心を示し、位置や変位、速度を理解しようとする。 ・物体が落下するときのようすなどに関心をもち、それらの現象を物理的に考えようとする。	指導項目・内容 ・物体の変位や速度などの表し方について、直線運動を中心に理解する。 ・直線上を運動している物体の合成速度や相対速度を考慮することができる。 ・物体の加速度を理解し、等加速度直線運動について式やグラフで考えることができる。 ・物体が空中を落下するときの運動を調べ、その特徴を理解する。 ・自由落下や鉛直投射について、式やグラフを用いて考えることができる。 ・教材 授業プリント	【知識・技能】 ・小テスト、実験・観察 【思考・判断・表現】 ・ワークシート、レポート 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ポートフォリオ	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
	第2章 運動の法則 【知識及び技能】 ・力の表し方とともに、さまざまな力のはたらきを理解する。 ・質量と重さの違いを理解し、重力、弾性力を計算することができる。 ・さまざまな運動状態における物体について、運動方程式を立てることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・つりあう2力と作用・反作用の2力の違いを説明できる。 ・さまざまな状態にある物体について、はたらく力を図示することができる。 ・運動方程式を用いて、物体がどのような運動をするかを考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・日常での経験と照らし合わせて力のはたらきを観察し、物理学的に理解しようとする。	指導項目・内容 ・物体にさまざまな力のはたらくことを理解する。 ・物体にはたらく力の合成・分解をベクトルを用いて扱い、つりあいについて理解を深める。 ・作用・反作用の法則を扱い、つりあう2力との違いを理解する。 ・運動の3法則について、観察や実験を通して理解する。 ・運動方程式の立て方について学習し、さまざまな運動状態における運動方程式の立て方を理解する。 ・摩擦力の特徴を理解し、それを含めた運動について理解する。 ・水圧と浮力の関係について理解する。	【知識・技能】 ・小テスト、実験・観察 【思考・判断・表現】 ・ワークシート 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ポートフォリオ	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>第3章 仕事と力学的エネルギー</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物理における仕事、仕事率を計算することができる。 力学的エネルギー保存の法則を導くことができ、式を立てることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギーを仕事と関連づけて理解し、両者の関係を説明することができる。 種々の物体の運動について、力学的エネルギー保存の法則を適用することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギー保存の法則に関連させ、振り子の速さの測定などの実験に積極的に取り組んでいる。 	<p>指導項目・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事、仕事の原理、仕事率を学習し、物理における「仕事」について理解する。 運動エネルギーと仕事の関係について、式を用いて理解する。 力学的エネルギーの保存について実験などを通して学習し、法則が成り立つ条件とともに理解する。 <p>・教材 授業プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト、実験・観察 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート、レポート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ 	○	○	○	13
	<p>第2編 熱</p> <p>第1章 熱とエネルギー</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> セルシウス温度と絶対温度の関係の式を用いて理解する。 熱容量と比熱の関係を学習し、熱量の保存についての式を立てることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を加熱していくときの、物質の状態と構成粒子の熱運動の関係について説明することができる。 圧縮発火器を用いた実験において、脱脂綿が発火する理由を説明できる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常でよく使われる温度と絶対温度との違いを認識し、温度と熱との関係を主体的に考えようとする。 エネルギーとその移り変わりについて、日常での利用例と関連させて理解しようとする。 	<p>指導項目・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱と熱量を学習したのち、熱平衡、比熱、熱容量、熱量の保存、潜熱について理解する。 熱と仕事が同等であることを学習し、内部エネルギー、熱力学の第1法則を理解する。 さまざまなエネルギーの移り変わりを学習したのち、エネルギーの保存について理解する。 <p>・教材 授業プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト、実験・観察 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート、レポート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ 	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	<p>第3編 波動</p> <p>第1章 波の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単振動と等速円運動の関係を学習し、波の速さや振動数、波長など、基本的な波に関する物理量について理解する。 横波と縦波の定義を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 波の重ねあわせ、波の独立性を踏まえ、2つの波によって生じる波形を表現することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりには、さまざまな種類の波があることを理解しようとする。 ばねを伝わる波や波動実験器などの実験で、波が伝わるようすを意欲的に観察しようとする。 	<p>指導項目・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦波と波、振幅、波長、周期、振動数、媒質の振動など、波の要素について学習する。 重なりあった波の作図などを通して、定常波が生じるしくみを理解する。 パルス波の反射、正弦波の反射について、反射の仕方、反射波と合成波の作図の仕方を理解する。 <p>・教材 授業プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト、実験・観察 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ 	○	○	○	10
	<p>第2章 音波</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音波が疎密波であることを理解し、空気中における音速と温度の関係を式で表すことができる。 オシロスコープで表示した音波の波形を比較し、音の振動数、大きさを比べることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 気柱共鳴装置を用いた探究などを通じて、おんさの振動数を測定することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの事象や現象と結びつけ、音の伝わるようすや音が波であることの特徴を理解しようとする。 うなりの観測を通じて、うなりが生じるしくみを主体的に理解しようとする。 	<p>指導項目・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 音波の伝わり方を学習し、空気中における音速と温度の関係を理解する。 弦や気柱に生じる振動の特徴を学習し、波の波長、振動数の関係を式を用いて理解する。 <p>・教材 授業プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テスト、実験・観察 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ 	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	

3 学 期	<p>第4編 電気</p> <p>第1章 物質と電気</p> <p>第2章 磁場と交流</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オームの法則を用いて、電流、電圧、抵抗のそれぞれの量を求めることができる。 ・ 物質の抵抗と太さや長さとの関係を理解し、式で表すことができる。 ・ 電流が磁場から受ける力の特徴、電磁誘導の特徴を知る。 ・ 電磁波にはさまざまな種類のあることを知り、利用例を理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長さや太さの異なる物質の抵抗を測定し、長さ、太さとの間どのような関係があるかを考察する。 ・ 電磁誘導の特徴を踏まえ、発電機のしくみを説明することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ モーターや電磁誘導に関する実験などに意欲的に取り組んでいる。 ・ 家庭での電気の使用と関連させた生活の改善や節電について考える。 	<p>指導項目・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 摩擦電気を通して電気現象の原因となる電荷を学習し、帯電のしくみについて理解する。 ・ ニクロム線などの物質の抵抗と形状の関係について測定し、抵抗率を導入する。 ・ モーターが回転するしくみ、発電機で電気が生じるしくみを理解する。 ・ 直流と交流の違いを知り、交流の性質を踏まえ、変圧器や送電について理解する。 <p>・ 教材 授業プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト、実験・観察 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポートフォリオ 	○	○	○	18
	<p>第5編 物理学と社会</p> <p>第1章 エネルギーとその利用</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽エネルギーや化石燃料を用いた発電方法について理解する。 ・ 放射線の実体が何かを理解し、人体への影響や利用について知る。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気エネルギーへの変換を中心として、利用しているエネルギー資源について調べることができる。 ・ 原子力発電のメリット、デメリットを説明することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活と深く関わる電気エネルギーが、どのようにつくられているのかに関心を示している。 ・ 放射線や原子力の利用について、意欲的に学習しようとする。 	<p>指導項目・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽エネルギーと化石燃料の特徴について学習し、エネルギーの流れや問題点などを理解する。 ・ 放射線の種類とその性質を学習し、原子力発電についてのメリットとデメリットを知る。 <p>・ 教材 授業プリント</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト、実験・観察 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポートフォリオ 	○	○	○	7
	定期考査				○	○	
							合計
							117

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 地学基礎

教科：理科 科目：地学基礎
 対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組（必修科目）
 教科担当者：（1～8組：柴田昌幸）
 使用教科書：（高等学校 地学基礎 : 数研出版）

単位数： 2 単位

教科 理科 の目標：
【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 地学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙や自然現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	宇宙や自然現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	活動する地球 【知識・技能】 地球の概形やプレートテクトニクスの仕組みを学び、地殻で起こる地学的現象について理解する。 【思考・判断・表現】 地球の大きさの測定や、プレート運動と地震・火山や大地形の関係について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 1 地球の形と大きさ 2 地球の構造 3 プレートテクトニクスと地殻変動 4 プレート運動のしかた ・教材 教科書、図表、自作プリント ICT機器、PC等	【知識・技能】 ・適切に位置情報や機器を利用し、地球の大きさやプレートの移動速度を求められる。 ・3種類のプレート境界と大地形や地震・火山などの地殻変動との関係がわかる。 【思考・判断・表現】 ・地球が球である証拠を理解したり、回転楕円体について考えられる。 ・大地形や地殻変動に分布を見てプレートの運動について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実習方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	地震と火山 【知識・技能】 地震や火山が発生するメカニズムについて理解する。 【思考・判断・表現】 3つのプレート境界と地震・火山との関係について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 5 地震 6 地震の分布 7 地震災害 8 火山活動 9 火山がもたらす恵みと災害 ・教材 教科書、図表、自作プリント 各種標本、ICT機器、PC等	【知識・技能】 ・地下構造と関連させて地震・火山が起こるメカニズムがわかる。 ・地震や火山の発生に伴って起こり得る現象や災害について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・地震の伝わり方を的確に理解し、震源決定をすることができる。 ・地震災害や火山災害について理解し、それに対する防災対策について考えられる。 ・火山の形やマグマの性質から噴火様式や火山災害を予測することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	11
定期考査			○	○	○	1	
2 学 期	移り変わる地球 【知識・技能】 地層や化石のでき方を理解し、地球史の成り立ちを考える。 【思考・判断・表現】 環境と生物との相互関係について理解し、生態系や地球環境の保全について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 10 堆積作用と堆積岩 11 地層の形成 12 化石と地質時代の区分 13 古生物の変遷 ・教材 教科書、図表、自作プリント 各種標本、ICT機器、PC等	【知識・技能】 ・河川的作用等によって形成される地形や、堆積岩の形成過程がわかる。 ・地層や化石の形成過程を理解し、そこから推測される地球史がわかる。 ・古生物と地球環境との関係がわかる。 【思考・判断・表現】 ・地質構造や含まれる化石から堆積した時代や環境を推測できる。 ・地表の変化のメカニズムについて理解し、起こり得る災害を予測することができる。 ・生物の変遷と地球環境との関係を理解し、地球環境の保全について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	18
	定期考査			○	○	○	1

高等学校 令和7年度(2学年用) 教科 保健体育 科目 保健

教科: 保健体育 科目: 保健 単位数: 1 単位
 対象学年組: 第 2 学年 1 組～ 8 組
 教科担当者: (2・5・6組: 川上) (3・7組: 宮崎) (1・4・8組: 梶田)
 使用教科書: (大修館書店 新高等保健体育)

教科 保健体育 の目標:
【知識及び技能】各種の運動特性に応じた技能や安全についての知識及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】運動や健康について、自他の課題を発見し、課題解決に向け、合理的、計画的に思考・判断する力を身につけるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しみとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標:	
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけられるようにする。	健康についての自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
	【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生涯を通じる健康 (ア) 生涯の各段階における健康 【知識及び技能】 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることが理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択して説明できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯を通じる健康について、関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	・生涯の各段階における健康に関する正しい知識を理解し、自他の課題を資料やデータをもとに分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響を与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。	【知識・技能】 生涯を通じる健康において個人・社会的な活動や課題についての理解を深め、個人及び社会生活を健康で豊かにするための方法を理解している。 【思考・判断・表現】 生涯を通じる健康に関する個人及び社会的な課題について、データや資料を基に、理解し、課題解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じる健康について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	5
	生涯を通じる健康 (イ) 労働と健康 【知識及び技能】 労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 労働と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択して説明できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 労働と健康について、関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	・労働と健康に関する正しい知識を理解し、自他や社会の課題を資料やデータをもとに分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響を与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。 ・グループワークを通じて、プレゼンテーション能力の育成及び知識の理解が深まるよう指導する。	【知識・技能】 労働と健康による個人・社会的課題についての理解を深め、個人及び社会生活を健康で安全にするための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 労働と健康に関する個人及び社会的な課題について、データや資料を基に、理解し、課題解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 労働と健康について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
2 学 期	健康を支える環境づくり (ア) 環境と健康 【知識及び技能】 環境と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと社会の関わりを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 環境と健康について、課題解決を目指して、知識を活用した学習活動により、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 環境と健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	環境と健康について正しい知識を理解し、未成年の健康被害に関するデータや資料をもとに課題を分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響を与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。 ・生徒の発表学習を通じて、プレゼンテーション能力の育成及び知識の理解が深まるよう指導する。	【知識・技能】 環境と健康による個人・社会的な影響の理解を深め、個人及び社会生活を健康で安全にするための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 環境と健康に関する個人及び社会的な課題について、データや資料を基に、理解し、課題解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境と健康について関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	6
	健康を支える環境づくり (イ) 食品と健康 【知識及び技能】 食品と健康について、課題解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活とのかかわりを理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 食品と健康について、課題の解決を目指し、科学的、総合的に判断し、説明することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 食品と健康について、関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。	・生徒一人一人が興味・関心に基づき、食品管理の資料やデータをもとに自他や社会の課題を分析、解決し、自らのライフスタイルに良好な影響を与えることができるよう授業を展開する。 ・生徒の興味・関心や状況に応じて、タブレット端末を適宜活用し、理解の深化が図れるようにする。 ・グループ活動を積極的に取り入れ、対話的で深い学びの実現を図る。	【知識・技能】 食品と健康に関する、適切な生活行動を選び、実践する必要があることを理解し、個人及び社会生活を健康で安全にするための知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 食品と健康について、データや資料を基に、他人の意見を聞く中で課題の設定や解決方法を考え、判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品と健康について関心を持ち、資料の収集をしながら課題を見つけ、意欲的に学習しようとしている。	○	○	○	6

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：川上裕・谷口・羽場・梶田・宮崎・渋谷

使用教科書：（大修館書店 新高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動特性に応じた技能や安全についての知識及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康について、自他の課題を発見し、課題解決に向け、合理的、計画的に思考・判断する力を身につけるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
各種の運動の合理的・計画的な実践を通して、運動技能を高め、体力の向上と健康の保持増進の必要性について理解し、それらの技能を身につけられるようにする。	各種の運動における自他の課題を発見し、合理的、計画的な実践を通して、課題解決に向けて思考・判断する力及び自分の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。	運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯にわたり継続して運動に親しむ態度を身につけられるようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
<p>体づくり運動</p> <p>【知識及び技能】 体の構造や運動の原則を理解するとともに、運動の特性に応じた動きを身につけさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 運動を通して、自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて、取り組み方を工夫したり、考えを仲間に伝えることができる力を身につけさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 運動に自主的・主体的に取り組むとともに、健康や安全を確保しようとする力を身につけさせる。</p>	<p>・新体力テストを実施し、現在の体力を把握し、今年度の授業の目標を立てるようにする。</p> <p>・一人での運動、複数人での運動を通して、体の構造や効果的な運動の仕方を学び、仲間と強調して運動することの楽しさが実感できるよう指導する。</p> <p>・各競技の動きと関連付けた運動を実施することで、これからの授業へのつながりが意識できるよう指導する。</p> <p>・運動に応じて、タブレット端末を使用し、自己や仲間の動きを客観的にみる場を設定する。</p>	<p>【知識・技能】 体づくり運動についての行い方や実生活への取り入れ方について理解し、基本的な運動の技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための計画を立てるとともに、自己や仲間の課題に応じて、運動の取り組み方を工夫している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 運動に自主的・主体的に取り組むとともに、健康や安全を確保しながら、体を動かす楽しさや心地よさを深く味わうことができる。</p>	○	○	○	12
<p>サッカー（女子）</p> <p>【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ゴール前の攻防における連携した動きを身につけさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。</p>	<p>・サッカーの基本動作である動きや基本的なパス、ドリブル、シュートを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するように指導する。</p> <p>・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。</p> <p>・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 サッカーの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。</p>	○	○	○	14
<p>テニス（男子）</p> <p>【知識及び技能】 テニスの基本的な動作や用具の安定した操作を身につけさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。</p>	<p>・テニスの基本的な動きやラケットの基本動作を習得し、ラリーや攻防を楽しむゲームが成立するように指導する。</p> <p>・ペアによる話し合いを通して、練習やゲームを行い、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。</p> <p>・状況に応じて、タブレット端末を使用し、自己や仲間の動きを客観的にみる場を設定する。</p>	<p>【知識・技能】 攻防を展開するための安定したボール・ラケット操作と空間を作り出すなどの動きができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 テニスの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。</p>	○	○	○	

1
学
期

2 学 期	<p>柔道（男子）</p> <p>【知識及び技能】 相手の動きに応じた基本的な動作や技、連絡技を用いて、相手を投げたり抑えることができるようになる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他の課題を発見し、合理的な課題解決に向けて、練習を工夫したり、自己の考えたことを他者に伝えることができる力を身につけさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 武道に自主的、主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方などの礼節を大切にすることを身につけさせる。</p>	<p>・柔道における受け身や基本的な寝技、投げ技を習得できるように指導するとともに、安全面の確保を徹底する。</p> <p>・ペアでの対話を通し、練習、組み合いを工夫しておこなうことができる場を設定する。</p> <p>・必要に応じてタブレット端末を活用し、自己や仲間の技能を客観的に把握できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 柔道における受け身や基本的な寝技・投げ技を習得しているとともに、安全な運動の仕方を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習を選び、練習の方法を工夫し仲間に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 柔道の学習に自主的、主体的に取り組むとともに、相手を尊重し伝統的な行動の仕方などの礼節を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	
	<p>ダンス（女子）</p> <p>【知識及び技能】 身体を動かす楽しさを味わうとともに、様々な基本的な動きの構成要素を身につけさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 テーマを設定し、テーマにふさわしいイメージをとらえ、創作内容を考えて、それを基本的な動きの構成要素を基に表現し発表する力を身につけられるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主体的に創作づくりに取り組むとともに、他者の作品を鑑賞しアドバイスを出し合って、互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。</p>	<p>・ダンスのウォーミングアップとしてのストレッチや基本的な動きを通して身体を動かす方を身につけられるように指導する。</p> <p>・基本的な動きの構成要素を使って、身近なものを表現する力を身につけさせ、4人組での表現・グループでの創作活動によって、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。</p> <p>・個人創作作品を全体の前で発表させることで、お互いに自己や仲間の作品を客観的に把握できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 基本的な動きの構成要素を使って、テーマに合った創作ダンスを作成することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の作品を鑑賞し、的確なアドバイスを相手に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ダンスの学習に自主的、主体的に取り組むとともに、動きの表現の仕方を仲間と意見を出し合い協力し合って、互いに高め合おうとしている。</p>	○	○	○	26
	<p>水泳</p> <p>【知識及び技能】 各泳法について、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く、速く効率的に泳ぐことができるよう指導する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自己の能力に適した課題解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的・主体的に取り組むとともに、水泳の心へを守りう安全に気を配ることができるようにする。</p>	<p>・各泳法について、フォームやそれぞれに合ったペースなどを習得し、記録に挑戦することの楽しさが実感できるよう指導する。</p> <p>・ボディとの対話を通し、自他の課題を把握し、練習を工夫するなどの思考判断の場を設定して、指導に当たる。</p> <p>・状況に応じて、タブレット端末を活用し、自身の動きを客観的に認識することができるような場を設定する。</p>	<p>【知識・技能】 各泳法について、手と足の動きに呼吸を合わせながら、続けて長く、速く、効率よく泳ぐことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自他の課題を発見し、効果的な練習や課題解決の方法を選び、実践することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 水泳の学習に自主的・主体的に取り組むとともに、健康や安全に気を配りながら学習することができる。</p>	○	○	○	14
	<p>テニス（男子）</p> <p>【知識及び技能】 テニスの基本的な動作や用具の安定した操作を身につけさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。</p>	<p>・テニスの基本的な動きやラケットの基本動作を習得し、ラリーや攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。</p> <p>・ペアによる話し合いを通して、練習やゲームを行い、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。</p> <p>・状況に応じて、タブレット端末を使用し、自己や仲間の動きを客観的にみる場を設定する。</p>	<p>【知識・技能】 攻防を展開するための安定したボール・ラケット操作と空間を作り出すなどの動きができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間の課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 テニスの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。</p>	○	○	○	
	<p>サッカー（女子）</p> <p>【知識及び技能】 役割に応じた基本的な動作や仲間と積極的に関わり、ゴール前の攻防における連携した動きを身につけさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自他やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、練習や作戦を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える力を身につけられるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にすること、仲間と協力して互いに高め合おうとする力を身につけられるようにする。</p>	<p>・サッカーの基本動作である動きや基本的なパス、ドリブル、シュートを習得し、攻防を楽しむゲームが成立するよう指導する。</p> <p>・チームごとでの対話を通し、練習やゲームを行うことで、課題に応じた思考判断や協調性を養えるよう指導する。</p> <p>・授業ごとにPDCAサイクルをチーム単位で行うことで常に思考判断の場を設定できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】 ゴール前への侵入から攻防を展開するための安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 自己や仲間、チームの課題を発見し、効果的な練習や作戦を選び、仲間に伝えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 サッカーの学習に主体的に取り組むとともに、フェアプレイを大切にしたり、仲間と協力して、互いに高め合おうとしている。</p>	○	○	○	14

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科：外国語 科目：英語コミュニケーションⅡ 単位数：4 単位

対象学年組：第1学年 1組～ 8組

教科担当者：（1,8組：高橋）（2,3,4組：志田）（5,6,7組：新井）

使用教科書：（ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅡ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 外国語で情報や考えの概要や要点、詳細、意図を的確に理解し、それをもとに自らの考えを形成し、適切に表現できるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標： 5つの領域における統合的な言語活動を通して、情報や考えを的確に理解し、自分の考えを表現したり伝えあう力を身につける。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身につけている。外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・論理的にコミュニケーションを図ろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 （「や」）	話 （「発」）	書						
1 学 期	Ch1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? 【知識及び技能】 かつてニュージーランドに生息していた鳥、モアについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 絶滅の危機に瀕している動物の特徴や生態などについて説明する。 【学びに向かう力、人間性等】	かつてニュージーランドに生息していた鳥、モアについて理解し、絶滅の危機に瀕している動物の特徴や生態などについて説明する。	○	○	○	○	○		○	○	○	20
	Ch2 Which sports can really be called sports? 【知識及び技能】 スポーツの条件となる要素やeスポーツについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ある議論について、主張と根拠を明確にしながら、ディベートを行う。 【学びに向かう力、人間性等】	スポーツの条件となる要素やeスポーツについて理解し、ある議論について、主張と根拠を明確にしながら、ディベートを行う。	○	○	○	○	○		○	○	○	13
	定期考査							○	○		1	
	Ch2 Which sports can really be called sports? 【知識及び技能】 スポーツの条件となる要素やeスポーツについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ある議論について、主張と根拠を明確にしながら、ディベートを行う。 【学びに向かう力、人間性等】	スポーツの条件となる要素やeスポーツについて理解し、ある議論について、主張と根拠を明確にしながら、ディベートを行う。	○	○	○	○	○		○	○	○	13
1 学 期	Ch3 How do we choose what we eat? 【知識及び技能】 多様な食習慣と、その理由や影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 レストランのレビューや、他のレビューへのコメントを書く。 【学びに向かう力、人間性等】 レストランのレビューや、他のレビューについて話そうとする。	多様な食習慣と、その理由や影響について理解し、レストランのレビューや、他のレビューへのコメントを書く。	○	○	○	○	○		○	○	○	20
	定期考査							○	○		1	

年間授業計画

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語 科目 論理表現Ⅱ

教科： 外国語 科目： 論理表現Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者： 志田、新井、常見、横瀬

使用教科書：（ EARTHRISE English Logic and Expression Ⅱ（数研出版） ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 外国語で情報や考えの概要や要点、詳細、意図を的確に理解し、それをもとに自らの考えを形成し、適切に表現できるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。

科目 論理表現Ⅱ の目標： 「話すこと（やり取り）」 「話すこと（発表）」 「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身につけ、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる。	場所・目的・状況などに応じて、幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的・論理的にコミュニケーションを図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	様々な動詞の形 Online shopping 【知識及び技能】 Writing about shopping 構成 【思考力、判断力、表現力等】 Writing about shopping 【学びに向かう力、人間性等】 オンラインショッピングについて自分の意見を述べる	・EARTHRISE いろいろな文・文型 時制 助動詞 ・英作文 英作文のプロセス 時制	○		○	○	○	【知識及び技能】 さまざまな文、文型、時制、助動詞を理解し、運用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 時制、助動詞を適切に用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 オンラインショッピングについて自分の意見を述べられる	○	○	○	15
	定期考査							○	○		1	
	副詞の働きをする表現 Book Review 【知識及び技能】 Writing about a story 構成 【思考力、判断力、表現力等】 Writing about a story 【学びに向かう力、人間性等】 本または映画について自分の意見を述べる	・EARTHRISE 受動態 不定詞 動名詞 ・英作文 時制 助動詞	○		○	○	○	【知識及び技能】 受動態、不定詞、動名詞を理解し、運用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 受動態、不定詞、動名詞を適切に用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 本または映画について自分の意見を述べられる。	○	○	○	15
定期考査								○	○		1	
2 学 期	提案する表現 Recommending a place 【知識及び技能】 Writing an email 構成 【思考力、判断力、表現力等】 Writing an email 【学びに向かう力、人間性等】 行ってみたい場所について電子メールを英語で書く	・EARTHRISE 分詞 関係詞 比較 ・英作文 条件・仮定 態	○		○	○	○	【知識及び技能】 分詞、関係詞、比較を理解し、運用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 分詞、関係詞、比較を適切に用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 行ってみたい場所について自分の意見を述べられる	○	○	○	15
	定期考査							○	○		1	
	パラグラフの構成 Language Learning 【知識及び技能】 パラグラフの構成 【思考力、判断力、表現力等】 パラグラフライティング 【学びに向かう力、人間性等】 言語習得について自分の考えを述べる	・EARTHRISE 仮定法 話法 否定 ・英作文 不定詞・動名詞 分詞	○		○	○	○	【知識及び技能】 仮定法、話法、否定を理解し、運用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 仮定法、話法、否定を適切に用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 言語習得について論理的に考え、説明できる	○	○	○	15
定期考査								○	○		1	
3 学 期	比較・対照を用いたパラグラフ Use of Smartphones 【知識及び技能】 パラグラフの構成 【思考力、判断力、表現力等】 パラグラフライティング 【学びに向かう力、人間性等】 スマートフォンについて比較を用いて自分の考えを述べる	・EARTHRISE 接続詞 前置詞 形容詞・副詞 ・英作文 否定	○		○	○	○	【知識及び技能】 接続詞、前置詞、形容詞・副詞を理解し、運用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 接続詞、前置詞、形容・副詞等を適切に用いて表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 スマートフォンについて比較を用いて論理的に意見を述べられる	○	○	○	13
	定期考査							○	○		1	
											合 計	78

高等学校 令和7年度 教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～8 組：藤森）

使用教科書：（ 家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍） ）

教科 家庭 の目標： 実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 家庭基礎 の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
【家庭科の学び方】 【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動】 ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	・家庭科の学び方 ・生活に生かそう・自分の意見を文章にまとめよう	【知識・技能】 ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 【思考・判断・表現】 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	2
【生涯を見通す】 ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	・人生を展望する ・目標を持って生きる	【知識・技能】 ・自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
1 学期 【人生をつくる】 ・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。	・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会	【知識・技能】 ・家族・家庭の機能と家族関係について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	6
【子どもと共に育つ】 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。	・子どもの育つ力を知る ・子どもと関わる ・これからの保育環境	【知識・技能】 ・乳幼児期の心身の発達と生活について理解している。 ・親の役割と保育について理解している。 ・子供を取り巻く社会環境について理解している。 【思考・判断・表現】 ・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>超高齢社会を共に生きる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢・大衆長寿社会の到来 ・高齢者の心身の特徴 ・これからの超高齢社会 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 ・高齢期の心身の特徴について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	6
	<p>食生活をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。 ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。 ・配膳やマナーに関心を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食生活の選択と安全 ・調理の基礎 ・これからの食生活 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・食品衛生について理解している。 ・おいしさの構成要素について理解している。 ・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・食の安全について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	18
	<p>住生活をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支える生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活の変遷と住居の機能 ・安全で快適な住生活の計画 ・これからの住生活 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 ・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	6
2 学 期	<p>衣生活をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。 ・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・これからの衣生活 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ・被服材料について理解している。 ・被服構成について理解している。 ・被服衛生について理解している。 ・被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	16

	定期考査			○	○		1
3 学 期	<p>経済生活を営む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・ 販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・ 消費者問題を予防し適切に対応できるように、消費者保護制度について理解する。 ・ 消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 購入・支払いのルールと方法 ・ 消費者の権利と責任 ・ 生涯の経済生活を見通す 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 ・ 生活情報を適切に収集・整理できる。 ・ 家計の構造について理解している。 ・ 家計管理について理解している。 ・ 生活における経済と社会との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ・ 責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	8
	<p>これからの生活を創造する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるように、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・ これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活をデザインする 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・ 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	○	○	○	2
						合計	78